

平成23年度 県立下館工業高等学校自己評価表

No. 1

目指す学校像	1 心身ともに健康で、互いを尊重する豊かな人間性を培い、次世代を担っていく人材を育成する学校。 2 工業に関する知識・技術を身に付け、堅実な職業観を持った産業の発展に寄与する人材を育成する学校。 3 生徒の希望する進路の実現を図ることにより、地域から信頼される進学も就職も可能な選択肢の広い学校。				
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況		
<p>重点目標の達成状況は5段階評価で3.79であった。</p> <p>進路面では、国立大学2名をはじめ進学者102名（4年生大学55名）、就職では厳しい社会情勢の中、就職率100%を誇り、生徒の適性に合った進路実現をほぼ果たせた。</p> <p>資格取得においても、第2種電気工事士や2級ボイラー技士では全国でもトップクラスの合格率を誇り、さらに1級ボイラー技士では県内初の高校生合格者を輩出した。</p> <p>今年度は、授業や行事をとおして、社会に貢献できる中堅の技術者を育成できるよう具体的な工夫や改善を試みていく。</p>	基礎・基本の徹底と個別指導による学力の向上を目指す。	①授業等の工夫・改善により、学力向上に努める。各教科ごとに生徒一人一人の的確な学力診断を行い、それに応じた指導を試みる。家庭学習の習慣をつける	3.59		
	資格取得実績の確実な伸長を図る。	②資格取得で県内トップを目指すことにより、ジュニアマイスターゴールド・同シルバーの取得者を増やす。	4.04		
	進路指導システムの構築による希望進路の達成を図る。	③生徒の多様な希望進路に対応できる3年間の進路指導マネジメントシステムを構築し、第1希望の合格率・公務員の合格率アップ、大学進学への拡充を目指す。	3.78		
	さわやかマナーアップ運動の推進と道徳教育の定着を図り、心の教育を充実させる。	④マナーアップ運動の推進と心の教育の充実のために、関係部署が連携を密にするとともに全職員で取り組む体制を確立し、基本的な生活習慣が確立している生徒を養成する。	3.54		
	特別活動の充実と安心・安全な環境づくりを目指す。	⑤特別活動の充実を図るために、生徒の活躍できる場を広げるとともに生徒が自主的に活動する機会を多くする。また、各種の催しを通して地域に情報を発信する。 ⑥学校の教育活動への理解を深めるために、家庭・地域との連携を積極的に推進して良好な関係をつくる。 ⑦各種の安全指導や安全管理を充実して事故の未然防止に努め事故発生ゼロを目指す。	3.61		
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題	
教科指導	国語	基礎学力の向上を図る。	授業また家庭学習において国語力の定着を図るための教材を準備する。①	3.0	<p>授業および課題を通し、基礎学力の定着を図る。特に漢字力を伸ばしたい。</p> <p>読書を通し、幅広い教養を身につけさせると共に、豊かな感受性と思考力を養いたい。</p> <p>就職、進学に向けた実践的知識力が身につくよう、より一層教材の工夫を行う。</p>
		読書を通し豊かな人間性を培う。	小テストを利用して理解度を把握するとともに、学習の習慣を身につけさせる。①	3.0	
		就職・進学指導の充実を図る。	1年生の授業の始業時に10分間読書を行うことで、豊かな感受性を養い、考える力を身につけさせる。①	4.3	
			本が自己の生き方に与える重要性を認識させ、読書感想文に取り組ませる。①	4.3	
	社会	基礎学力の向上を図る。	漢字検定を実施することで、生徒の学習意欲と進路意識を高める。②	4.0	
			個々の進路に応じた、一般常識や作文・小論文の指導を徹底する。①	4.0	
			わかりやすい授業展開および板書を心がけ、小テストや補講により理解の不十分な生徒への対応を図る。①	3.0	
		社会の学習内容がわかる喜びを実感できるようにする。	進路実現に対応した一般常識の定着を図る。①	4.0	
			ノートを定期的に点検し、学習の理解度などを把握する。①	5.0	
			視聴覚教材や、IT・新聞・地図・図表などの積極的な活用を図る。①	4.0	
		修学旅行の行き先の地理・歴史・文化等を取り上げ、事前指導の一助とする。①	4.0		
		生徒の実態（興味・関心）に即した授業展開を図る。①	4.0		

教	数	基礎学力の向上に努める。	生徒の力量に沿った教材を精選し、授業での個別指導等を通してきめ細かな指導を行う。	①	4.0	3.5	引き続き補習や課外を実施し、学力の向上に努める。問題集を活用し、家庭学習の習慣をつけさせる。
			レディネステスト、単元別テスト、定期考査等を利用して学習の理解度を把握し、不十分な生徒には補習を実施する。	①	4.0		
			進学希望者への課外授業等を通して学力の向上に努める。	①	4.0		
	学	家庭学習習慣の定着に努める。	問題集を利用して、家庭学習の習慣をつける。	①	3.0		
			わかる授業へと改善を図る。	各種研修会に積極的に参加し、教科会で発表するとともに自己研鑽に努める。	①		
	理	基礎学力の向上を図る。	工業高校で学習する上で最低限必要な物理と化学の知識及び学力の定着に努める。	①	4.0		
プリント学習等を利用して学習の理解度を把握し、不十分な生徒へは補習を実施する。			①	4.0			
科	理科の楽しさを実感する授業に努める。	実験を実施することにより理科への興味関心を惹きつける。	①	4.0			
		家庭学習の定着に努める。	課題・プリント・実験レポートを定期的に提出・点検することにより、自ら調べ学習する意識を定着させ、家庭学習に結びつける。	①	3.5		
指	英	基礎学力の向上を図る。	小テスト等を実施し、授業での学習内容の定着を図る。	①	4.0	4.1	言語活動を重視した、よりよい授業を目指し、各種研修等に積極的に参加したい。
			ノートやプリントを定期的に点検し、学習状況の実態を把握する。	①	4.3		
			課題等を与え、家庭学習の習慣をつける。	①	4.0		
			年度当初に外部テストを実施し、学力の経年比較を行い、各学年の学力の把握に努める。	①	4.3		
	学習指導の工夫に努める。	「音読」指導の時間を増やし、バランスのとれた授業展開を目指す。	①	4.3			
		ALTと協力し、コミュニケーション活動の活発化を図る。	①	4.3			
導	保	基礎体力および技能の向上を図る。	毎時間の授業の中で体づくり運動を取り入れる。	①	4.0	4.0	継続した取り組みにより、生徒の体力の向上、知識理解を促したい。
			技能の未熟な生徒や到達目標に達していない生徒に対しては、段階に応じて個別指導を実施する。	①	3.0		
			運動の楽しさや喜びを実感できる授業の展開を図る。	ゲームを通して運動量を確保し、種目の特性を理解できる機会を多くする。	①		
	体	自らの健康について関心を持ち活力ある生活を営む態度を育てる。	喫煙・飲酒・薬物乱用が健康に及ぼす影響について、学校生活全体を通して徹底指導を図る	⑦	4.0		
			基本的な生活習慣を身につけさせるとともに適切な意志決定・行動選択をする力を培う指導に努める。	⑦	4.0		
			家庭生活に関する基礎的基本的な知識と技術を身につけ、実生活に生かす力を養う。	授業への取り組みや課題等の提出状況を確認し、理解度を把握する。	①		
家庭	自らの生活に関心を持ち主体的に営む力を養う。	ワークシート・プリント学習等を活用し学習の理解度を把握する。	①	4.0			
		実験・実習を通して基礎的・基本的技術力の向上を図る。	①	4.0			
		ホームプロジェクト学習を通して、自らの生活を主体的につくる力を身につけさせる。	①	4.0			

教	美術	美術を愛好する心情を育成する。	絵画を通じデッサン、色彩、構成、材料や用具の生かし方などの技能の修得を図る。	①	3.0	3.4	各分野についてもう少し段階的な導入を工夫し、作品に至るまでの取り組みに興行きをもちたい。
			意図に応じた多様な表現方法の工夫ができるようにする。	①	3.0		
		感性を高め創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばす。	機能と美しさや楽しさを考えた主題の生成を図る。	①	4.0		
			鑑賞に関して、作者の心情や意図と表現の工夫を理解させる。	①	3.0		
	個性豊かな美術の能力を高める。	デザインを通じ生活を心豊かに想像する主題の生成を図る。	①	4.0			
科	音楽	基礎学力の向上を図る。	生徒の理解度を確認しながら、拍子・記号などの基本を実技と理論の両面から習得できるよう努める。	①	4.0	4.0	合奏の授業については、更なる工夫を加え、より充実した内容にできるよう、改善に努める。
			幅広い音楽的視野を持てるように、民族文化などの背景を学ばせたり、様々なジャンルの曲を聞かせたりする。	①	4.0		
		音楽を愛好する心情を育て豊かな情操を養う。	合奏の楽しみを感じさせると共にグループ活動の大切さに気づかせる。	①	4.0		
指	機械	将来のスペシャリストの育成を図る。	指導計画に基づいたわかり易い授業の展開を図る。	①	4.2	4.2	基礎学力向上等のために常にわかり易い授業の工夫が必要である。 資格取得の更なる奨励と指導の工夫が必要である。
			基礎・基本を充実させ先端技術を取り入れた設備の更新・充実を図る。	①	3.6		
			小テストを実施し、生徒個々の基礎学力の向上を図る。	①	3.8		
	資格取得実績の確実な伸長を図る。	基礎学力の向上を図る。	授業の内容が完全に理解できるように、生徒に課題提出や補習等を実施する。	①	4.4		
			標準テスト（機械工作）の平均点は60点以上を取れるように継続的な学習の定着を図る。	①	4.0		
			標準テスト（機械設計）の平均点は60点以上を取れるように継続的な学習の定着を図る。	①	4.0		
			資格取得（2級ボイラー技士）の合格数で県内トップを目指す。	②	4.6		
	資格取得（危険物取扱者試験）の合格率で県内トップを目指す。	②	4.6				
	生徒の資格試験の合格率を上げるため、放課後の補習を定期的に行う。	②	4.8				
導	電気科	基礎学力の向上を図る。	授業や実習を充実させるために、指導内容の見直しと教材研究を積極的に行う。	①	4.4	4.4	第二種電気工事士の高い合格率を維持しながら、第3種電気主任技術者試験の合格を目指したい。 また、電気科生徒の基礎学力の定着を目指す。
			わかりやすい授業を試み、成績不振な生徒に対しては課題や補講で対応する。	①	4.0		
	資格取得の実績を上げる。	第二種電気工事士試験は、受験者全員合格を目指す。	②	4.8			
			教科指導、資格指導を積極的に行う。	②	4.3		
			資格試験の奨励と進路指導を計画的に行う。	②	4.3		
建設工学科	基礎学力の向上を図る。	小テストを実施して理解度を把握し、不十分な生徒へは補習を実施する。	①	3.5	3.9	学習態度を向上させ、専門に対する興味関心を高め、学校生活を充実させる。	
			演習問題を多く解くことによって問題解法に慣れ、自信と実力をつける。	①			4.0
			製図や資格試験との関連性を重視した教科内容とし、図面の読み書きができる基礎能力を養う。	①			4.0
	資格取得実績の向上を図る。競技会に参加する。	2級施工管理技術者の学科試験合格者を出す。	②	3.4			
			計算技術検定・情報技術検定3級の合格率80%以上を目指す。	②			4.5
	ものづくりコンテスト関東大会の出場を目指す。	②	4.2				
	各種コンペ競技に参加する。	②	3.5				

電子科	基礎・基本の徹底と個別指導による学力の向上を目指す。	基礎理論について、きめ細かに、そしてわかりやすく指導・説明する。	①	3.9	3.9	次年度もより一層の指導を心がけ、生徒の理解度向上に努める。
		知識の理解度や計算能力の達成度を十分に把握し、授業展開に注意を払う。	①	3.7		
		専門科目の演習問題を多く利用し、応用力をつけさせる。	①	3.8		
		座学と実習を関連させながら、理論と実際の成り立ちをわかりやすく説明する。	①	3.8		
	資格取得指導を一層の充実を図る。	様々な資格に関する情報を提供する。	②	3.4		
		放課後や長期休業期間等に、筆記試験および実技関連の課外授業で生徒のバックアップに努める。	②	4.5		
教務	教育活動の公表に努める。	学校要覧、学校案内パンフレット等を作成して、開かれた学校教育活動に努める。	⑤⑥	4.2	4.2	本年度は、内規の再編集や学期制の変更、評価方法などを手がけてきた。次のステップとして、本校の特色を生かした学校行事の精選を行い、授業時間の確保やキャリア教育の充実を図る。また、情報部と連携し、成績処理システムを構築し、事務処理の効率化を図る。
	授業時間数の確保に努める。	授業時間数を確保するため、年休・出張時の授業の振替を徹底する。	①	4.0		
		学校行事の精選や特別編成時間割の活用で、授業時間数を確保する。	①	3.6		
	資格取得実績の確実な伸長を図る。	各種検定試験の計画実施を通して、資格取得実績の伸長を図る。	②③	4.3		
	基礎・基本の徹底と学力の向上を目指す。	標準テスト等の企画実施を通して、生徒の基礎・基本となる学力の向上を目指す。	①	4.1		
研修を通して教員の資質の向上を図る。	人権教育や情報教育等に関する職員研修会を実施し、教員の資質の向上を図る。	④	4.1			
生徒指導	「挨拶」「服装・頭髪」等の基本的なマナーを身につけさせる。	朝の立哨指導、服装指導を通して、挨拶の励行や服装頭髪等の改善に努める。	④	4.0	3.8	校内外での自律した行動ができるようにする。 交通安全の意識高揚をさせる。 多くの生徒との対話をして、生徒の問題意識の確認をする。
		職員週番や各学年及び各校務部との連携により、登下校のマナーの向上に取り組む体制を構築。	④	4.0		
	社会の一員としてのモラルの高揚に努める。	バイク通学者指導・車体検査・交通講話等を通して、交通安全の意識を高め事故を未然に防ぐ。	⑦	3.5		
		盗難の頻発や許し難い器物破損等の行為については、集会(学年・全校)・検査・保護者宛文書、場合によっては警察に協力を依頼する。各校務部・家庭や関係機関との連携をはかる。	④⑥	3.5		
心の教育の充実を努める。	定期的に被害(いじめ)調査などを実施し、小さなサインを見落とさない体制を作る。	④	4.0			
	各学年・教育相談部・保健室等との連携をはかり、生徒個々の密な情報交換に努める。	④⑥⑦	4.0			
進路指導	計画的・継続的な指導による進路意識の高揚を図る。	計画的な進路ガイダンスにより、将来に夢や希望が持てる継続的な指導を図る。	③	4.0	4.2	国立大学合格への指導対策。学年と進路の連携に合わせて教科との連携も進め、学力の向上を図る。
		各種適性検査のデータやワークシート等の活用を通して、各自の適性を知り職業観の定着を図る。	③	3.9		
		工場見学・インターンシップ等の実体験を通して、勤労や職業に対する見方・考え方の形成を図る。	③⑥	4.9		
	将来のスペシャリストとしての素養の熟成を図る。	教科・学年と連携し、模擬試験等による系統的に学力が身に付く体制づくりをする。	①③	3.7		
		職業資格の奨励により、スキルアップ・職業意識の高揚を図る。	①②③	4.3		
	外部との連携を充実する。	産業界や大学等との有効的なパートナーシップを築く。	⑥	4.1		
		保護者への計画的・継続的な進路啓発活動に努める。	⑥	4.0		
	情報提供を充実する。	「進路情報誌」、「進路だより」の発行や求人票のPDF化により適確な進路情報の提供を行う。	③	4.7		
閲覧室の有効的な活用を図る。		③	4.1			

特別活動	自主性を育てる生徒会活動の活性化に努める。	体育祭を中心とした学校行事において、生徒会・各委員会活動の自主的活動の活性化を促す。	⑤	4.0	3.8	次年度は文化祭の年なので、生徒会・実行委員会を中心とした自主的活動を促していきたい。
		生徒会新聞「志工」を行事ごとに発行し、生徒を通じ保護者等に校内の様子を知らせる。	⑤⑥	4.0		
	学校行事を積極的に公表する。	校外ボランティア活動に積極的に参加することを勧め、地域とのつながりを密にする。	⑤⑥	3.0		
		生徒が自ら考え行動できる生徒会活動の組織構築を行う。	⑤	4.0		
厚 生	学習活動に適した環境の整備と学校の安全の確保を図る。	日頃の清掃活動及び行事等の前に実施する大掃除を充実したものにし、生徒の環境美化意識を高める。	④	3.3	3.8	震災に対する備えとしての避難訓練を継続して実施したい。 校庭の放射線量を測定し、報告していく業務が増えたので係分担に加えていく。
		学校保健安全計画に基づき、諸検査・安全点検・防火訓練等を実施する。	⑦	4.0		
		奨学金等の事務処理を確実に行う。	⑥	3.7		
	生徒の健康の維持・増進を図る。	学校保健安全計画に基づき、健康診断や検診等を実施し、結果についてはクラス担任や保護者と連携して対応する。	⑦	3.3		
		「保健便り」の発行や講演会を通じて、生徒の健康や衛生に対する意識の向上を図る。	⑥	4.0		
		保健室の円滑な管理・運営に努める。	⑦	4.0		
	心身に問題を抱えた生徒への対応を図る。	インフルエンザ等の感染症については、学校医等の協力を得てその流行の防止に努める。	⑦	4.0		
		生徒の保健室の利用状況を把握する。	⑦	4.0		
図 書	読書推進活動を図る。	適切な廃棄をし、図書館の新鮮な環境づくりを心がける。	⑤	4.8	4.1	閲覧室・司書室・書庫の整理および館内の新鮮な環境づくりを図る。役割分担を通し、図書委員活動の活性化を図る。授業と連携を図り、読書推進活動に力を入れる。
		新刊案内・ライブラリニュースの発行を通して、生徒および職員の読書活動を推進する。	⑤	4.0		
		カウンター当番・館内整理・広報活動など図書委員活動の活性化を図る。	①	4.0		
	視聴覚委員の育成	各種講演会・集会・学年行事などに際し、マイクの準備が適切にできるよう視聴覚委員を育成する。	①	3.6		
教育相談	心の教育の充実を図る。	小さなサインを確実に把握するため、情報交換の充実を図る。	④	3.8	4.1	生徒をよく観察し、生徒の理解に努める。
		保健室、指導担当との連携を図る。	④	4.3		
渉 外	関係諸機関との連携を図り、家庭教育の支援を推進する。	P T A会員に対する学習の機会及び情報の提供その他の家庭教育を支援するため研修、講演会やP T A新聞の発行等を行う。	⑥	4.5	4.4	P T A総会の出席率をもう少し上げ、保護者の行事等への理解と協力を得ていきたい。
		P T A会員相互の親睦を深めるとともに、P T A行事への参加率の向上を図る。	⑥	4.2		
		創立50周年記念事業に対し、保護者と協力して取り組む。	⑥	4.5		
情 報	校内外への情報配信に努める。	校外向けHP(PC版・Mobile版)での内容(創立50周年関連を含む)を充実させ情報伝達を図る。	⑤⑥	4.8	4.1	PC環境の整備。 職員室等PCのOSやソフトのバージョンアップ。
		各科・各校務分掌と連携を図り、校内情報閲覧システム(生徒用Date-Net)や校内情報処理システム(教員用TD-Net)を充実させる。	②③	3.8		
		生徒指導部と連携し生徒・保護者を対象とした情報モラル講習を行う。	⑦	3.6		
		学校紹介ビデオや創立50周年記念DVDを他部署と連携し製作することにより、中学校や地域へのPRに努める。	⑤⑥	4.8		
	P C環境を整備する。	生徒活動に見合ったPC環境を整備し、校内PCの利用を推進する。	①②⑤	3.6		
活性化委員会	本校の教育活動を地域や中学校に伝へ活性化を図る。	公開実習を実施し、中学生やその保護者に本校について理解してもらう。	⑥	4.2	4.2	各関係機関と連携を密にし、無理のない計画のもとに実施する。
		県西生涯学習センターフェスティバル等の地域行事に参加し、本校の活動内容のPRを図る。	⑥	4.2		

第1学年	基本的生活習慣の確立	あいさつを励行する。	④	3.9	3.7	朝の学習の継続と改善（再テストや補習の実施），および進路実現へ向けての継続した指導（目標達成度の向上）を行う。
		正しく制服を着装し，高校生らしい身なりをする。	④	3.3		
		時間を厳守し，けじめある生活をする。	④	3.7		
		きまりを守ることから，社会的規範の意味を理解し行動する。	④	3.7		
	学習への意欲的な取り組み	将来的な進路の目標を持ち，進路実現に向けた基礎固めとする。	③	3.7		
		授業に自ら積極的に参加させる。	①	3.4		
		課外授業，基礎力診断テスト等に積極的に参加し，基礎力・応用力を身につけさせる。	①	4.0		
	思いやりの心を持った行動をする	資格・検定試験等に対する意識を持ち，合格に向け努力する。	②	4.3		
		集団生活の中での，自分の位置づけを見いだす。	④⑤	3.2		
相手の立場で，物事を考え，判断できる。		④	3.6			
第2学年	基本的生活習慣の確立	お互いに信頼関係を持って接する。	④⑥	3.6	3.8	身だしなみに等に問題のある生徒が若干見受けられる。来年は最高学年でもあり，進路に影響が出ないように今後の指導が必要である。また，授業に集中できていない生徒がいるようなので，教科担任等と連携を密にし，個々の指導で改善を図る。
		館生らしい，明るく元気なあいさつができるように指導する。	④	3.7		
		欠席・遅刻・早退を少なくし，規則正しい学校生活の充実を促す。	④	4.0		
	希望進路の選択と実現への努力	将来の進路を考えた身だしなみに心がけ，規範意識を高める。	③④	3.7		
		進路ガイダンス・工場見学・インターンシップ等を通して，適性進路の探求を促進する。	③	4.2		
		資格試験に対し，意欲的な取り組みをさせ，将来の進路に役立つよう努力させる。	②	3.8		
	学校生活の充実	授業・朝自習・長期休みの課題に自発的に取り組みせ，基礎学力の向上をはかる。	①②	3.7		
		中心学年であることを自覚させ，学校全体を牽引できるようにする。	⑤⑥	3.2		
		修学旅行・体育祭への自発的な取り組みを促し，充実した学校生活ができるようにする。	⑤⑥	4.2		
第3学年	希望進路の実現	相手の立場や状況を考え，居心地のよいHR・学校づくりに努める。	④⑥⑦	3.7	4.1	
		生徒や保護者との面談・連絡を密にし，一人一人の進路希望を把握し実現につとめる。	③⑥	4.5		
		生徒一人ひとりの能力，適性に応じた進路指導につとめる。	③	4.4		
		日々の授業にしっかりと取り組みせ，進路実現のための学力を身につけさせる。	①	3.9		
	基本的生活態度の確立	進路に対応する模擬面接を繰り返し実施し，面接のスキルを身につけさせる。	③	4.3		
		欠席・遅刻・早退を極力なくすよう指導する。	④	3.7		
		日頃から正しい服装，元気な挨拶ができるようにする。	④	3.6		
	学年内協力体制の維持	進路先決定後の生活の乱れを最小限に食い止める指導を行う。	④	4.2		
		クラスや生徒の情報をオープンにして共有する。	③⑥	4.3		
	生活の崩れには学年として取り組む。	④⑥	4.2			

※評価基準 5：大変よくできた 4：よくできた 3：ふつう 2：やや不十分 1：不十分